乙貝

第６０号　通巻11巻第５
１９９２年１月15日　発行

守山市立埋蔵文化財センター
☎　（０７７５）８５－４３９７
〒　５２４－０２
守山市服部町２２５０番地

国　古墳跡から鳥形埴輪が出土

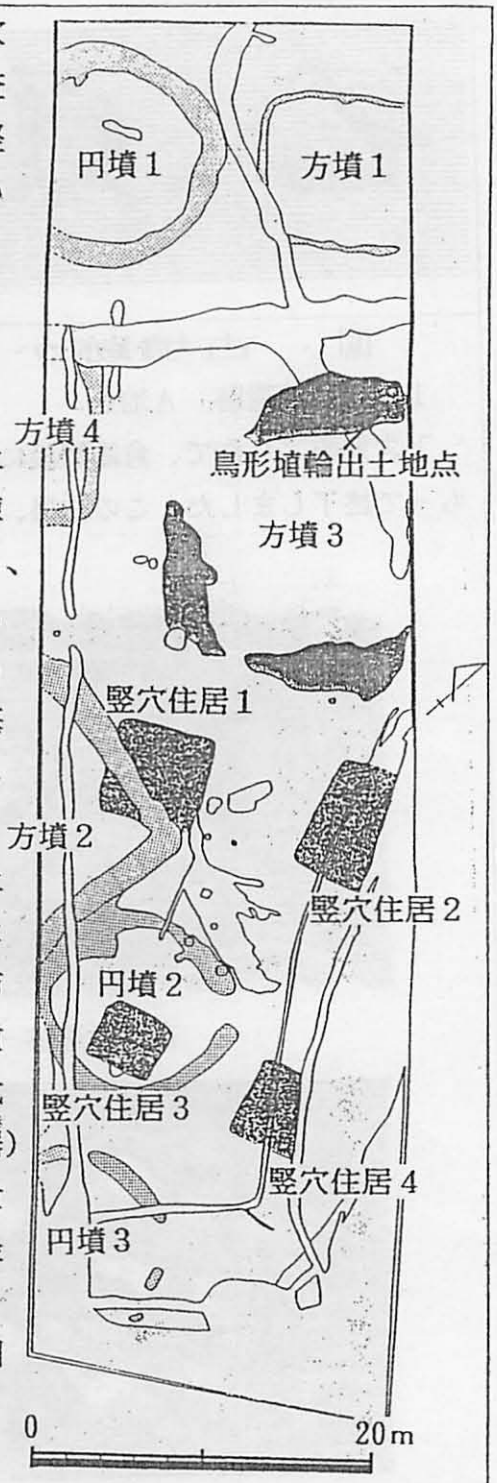
１．吉身西遺跡－Ａ地点－

下之郷町字八作で、倉庫建設に先立ち行っていた発掘調査は12月17日をもって終了しました。この結果、古墳時代の竪穴住居４棟、土壙、柱穴の

吉身西遺跡－Ａ地点－全景写真

方墳３周濠内埴輪出土状況写真

ほか、古墳跡７基を発見しました。竪穴住居は４棟のうち竪穴住居１・２を調査し、３・４は平面のみ検出しました。竪穴住居１は同じ場所で建て替えられていますが、これは以前の住居をふたまわりほど拡張した（６ｍ×5.5ｍ規模）ものと考えられます。竪穴住居２は東側を溝３に削られていますが一辺７ｍの大きさと考えられます。これら住居の年代は出土遺物から古墳時代前期頃とみられ、４棟とも同じ方向に建てられていることから、竪穴住居３・４もほぼ同時期で、しかも同じグループの住居ではないかと考えられます。古墳は円墳（えんぷん）が３基、方墳（ほうふん）が４基あり、並んだような状態で見つかりました。中でも方墳３は一辺12ｍと最大で、周濠（しゅうごう）内からは円筒埴輪（えんとうはにわ）や鳥形埴輪（とりがたはにわ）が出土しました。人や動物を模した形象埴輪（けいしょうはにわ）は豪族の墓とみられる川田古墳についで市内では４例目の発見であり、たいへん重要な資料といえるでしょう。古墳の年代は周濠から出土した土器（土師器（はじき）・須恵器（すえき））から６世紀代と考えられます。同じ６世紀代の古墳は市立図書館近くに３基、金森東遺跡（山柿団地付近）で４基発見されており、今回発見された古墳群との関係が注目されます。



（畑本）

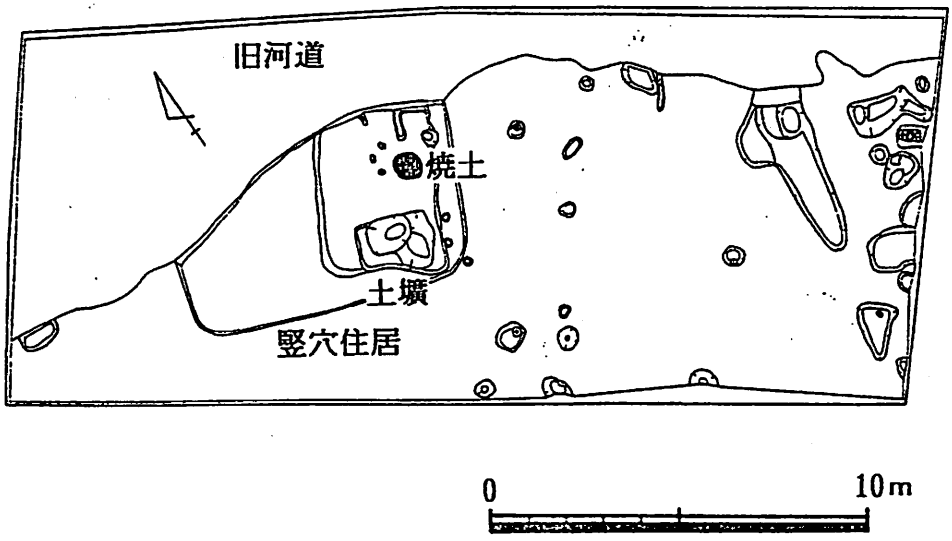
吉身西遺跡－Ａ地点－遺構平面図

古墳時代後期の竪穴住居

2．吉身北遺跡

梅田町字八の坪で診療所建設に先立ち、12月13日から12月25日の間、調査を実施しました。これまでの調査で、吉身北遺跡や隣接する吉身南遺跡は古墳時代後期の大集落遺跡であることがわかっています。今回の調査でも古墳時代後期の竪穴住居１棟と土壙（どこう）１基、それに柱穴が見つかりました。竪穴住居は東側半分を旧河道（きゅうかどう）（河川跡）に削り取られていますが、一辺８ｍ程の方形の大型住居であると考えられます。遺物は土師器の甕（かめ）や須恵器の杯身（つきみ）のほかに、滑石（かっせき）（緑色の軟らかい石で、古墳時代に玉などの材料に使われた。）の原石やチップ（削りかす）が見つかっていて、この住居で玉作りが行われていたことが想像されます。土壙は深さ1.6ｍの規模で、中から土師器や須恵器が多量に見つかりました。あるいはゴミ捨て穴のような用途が考えられるかも知れません。ここから北側では遺構は見つかってなく、地形も傾斜して低くなっていくことから、今回の調査地付近が吉身北遺跡の北端ではないかと考えられます。

（畑本）



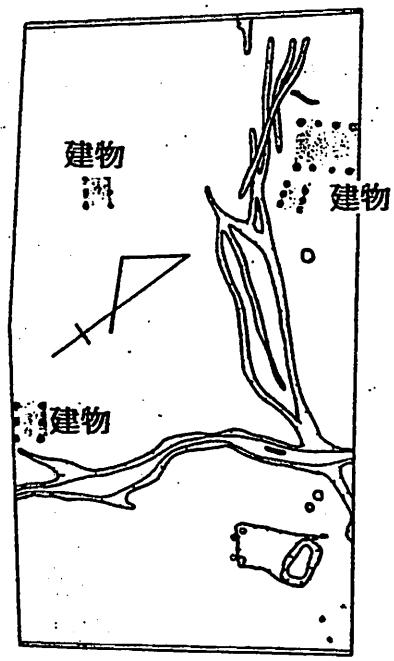
吉身北遺跡遺構平面図

図　縄文時代の自然流路

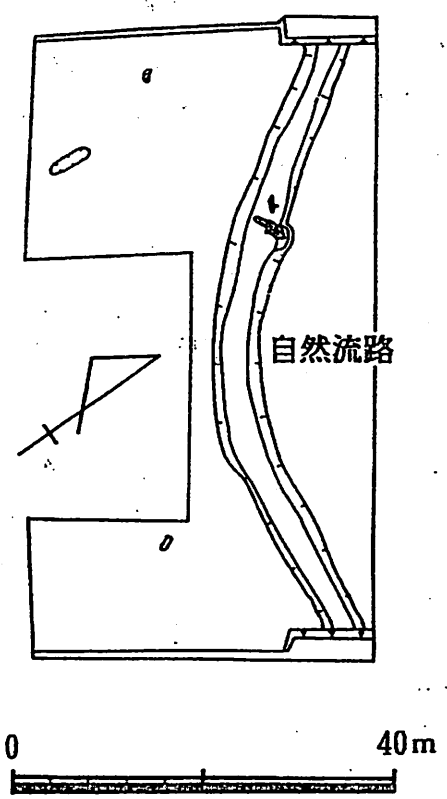
3．吉身西遺跡－B地点－

前号で中間報告した福祉保健センター建設に伴う発掘調査も11月で終了しました。ここからは上下二層の遺構を検出しました。上層(表土下30cm)からは古墳時代前期の掘立柱建物(ほったてばしらたてもの)4棟と土壙、溝が見つかりました。この東南側には竪穴住居で構成されるほぼ同じ時期の集落があり、今回発見された遺構との関係が注目されます。さらにその60cm程下層からは縄文時代の自然流路(しぜんりゅうろ)（河川跡）が見つかりました。流路には厚い砂が堆積していたことから、当時かなりの水流があったことが想像されます。流路内からは自然木(しぜんぼく)やシイ・クルミなどの堅果類(けんかるい)が多く出土しました。このほか縄文土器も見つかっており、周辺に縄文時代の集落の存在が考えられます。

(川畑)



上層(古墳時代前期)遺構平面図



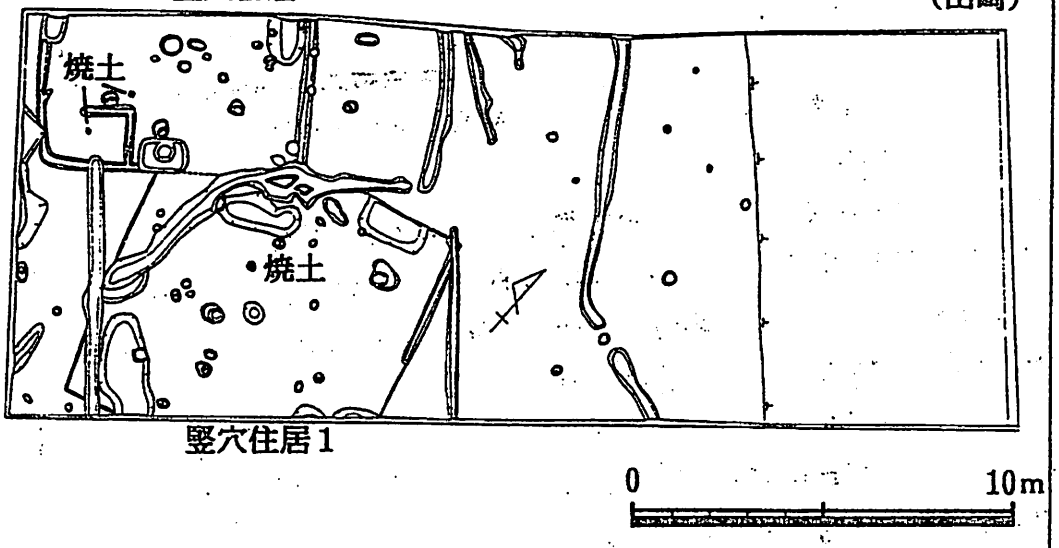
下層(縄文時代)遺構平面図

古墳時代初頭の竪穴住居

4．吉身西遺跡－Ｃ地点－

守山町字茨ヶ町で、共同住宅建築に先立って12月13日から調査を実施しました。その結果、古墳時代初頭の竪穴住居２棟と土壙、溝、柱穴が見つかりました。竪穴住居１は一辺 8.1ｍとやや大型の住居で、東辺に排水用の周壁溝、中央南よりに炉跡が認められました。竪穴住居２は一辺 7.3ｍの規模で、北・南辺に周壁溝、東辺に貯蔵穴が掘られていました。炉跡は２ヶ所見つかりましたが、うち南側の方は間仕切りとみられるＬ字形の小溝に囲まれた場所にあり、その性格を考えるうえで興味深いといえます。

（山崎）



吉身西遺跡－Ｃ地点－遺構平面図

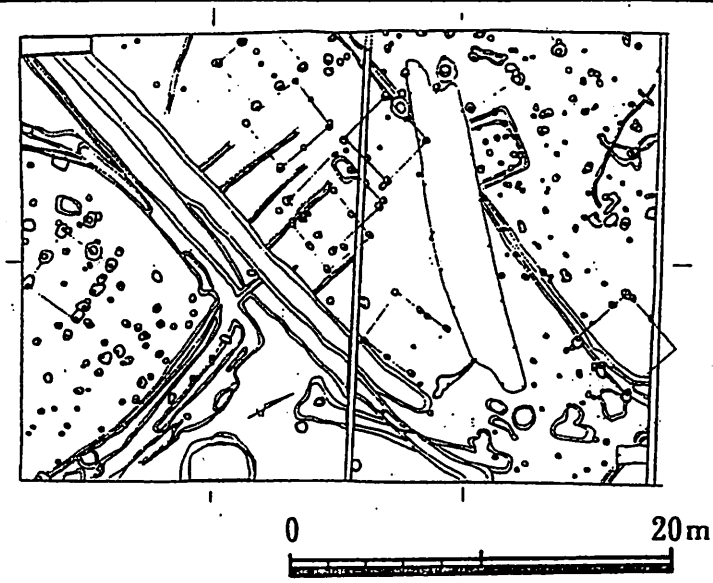
調査中

5．下長遺跡

古高町にある下長遺跡の調査を11月１日から進めています。今回の調査地は、平成２年に新たに造成された古高工業団地の北西端の区画で、工場建設に先立ち約2.000㎡が対象となります。現在までに古墳時代前期の掘立柱建物12棟以上や溝、土壙などが見つかっています。この東南側（平成元・２年度実施調査）でも同じ時期の集落が発見されており、この集落がさらに広がることが今回確認されました。野洲川流域の古墳時代前期の集落は倉

を除いて竪穴住居で構成されるのが通常なのですが、下長遺跡で調査されている集落は竪穴住居より先進的とされる掘立柱建物のみで構成されており、集落規模の大きさと合わせて、今最も注目されている遺跡といえるでしょう。

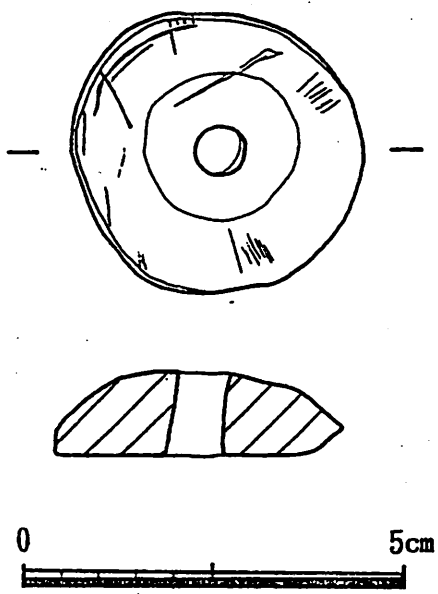
（岩崎）



下長遺跡遺構平面図

6．阿比留遺跡

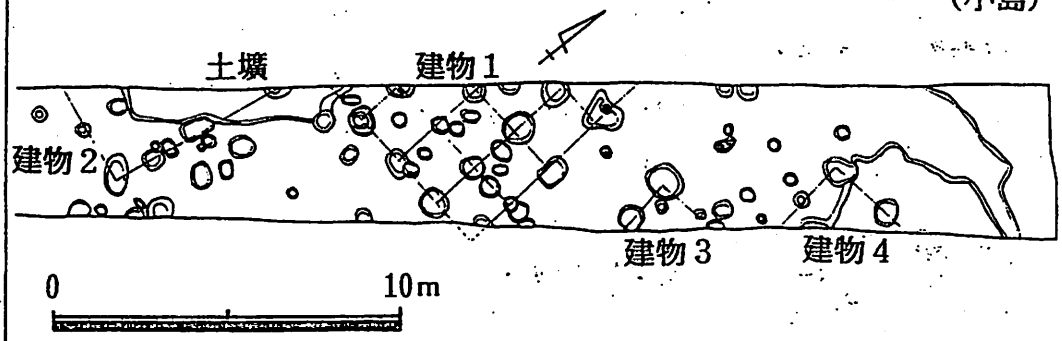
12月から道路建設に伴い、小島町地先で発掘調査を実施しています。今回の調査は昨年度行われた小御門遺跡の調査に継続するもので、現在までに上（鎌倉時代）・下（古墳時代後期）２層の遺構が確認されています。小御門遺跡の調査で、阿比留遺跡との間に大きな谷状の地形があったことがわかっており、阿比留遺跡が微高地の縁辺に立地していることがわかります。古墳時代後期の遺構（表土下１ｍ）は掘立柱建物４棟以上と方形土壙１基が見つかっています。建物の全体規模はよくわかりませんが、建物１は束柱をもっていることから、倉庫ではないかと考えられます。土壙は一辺７ｍの規模で、竪穴住居の可能性があります。遺物は包含層を中心に多量の土師器や須恵器（27ℓコンテナ10箱）、それに



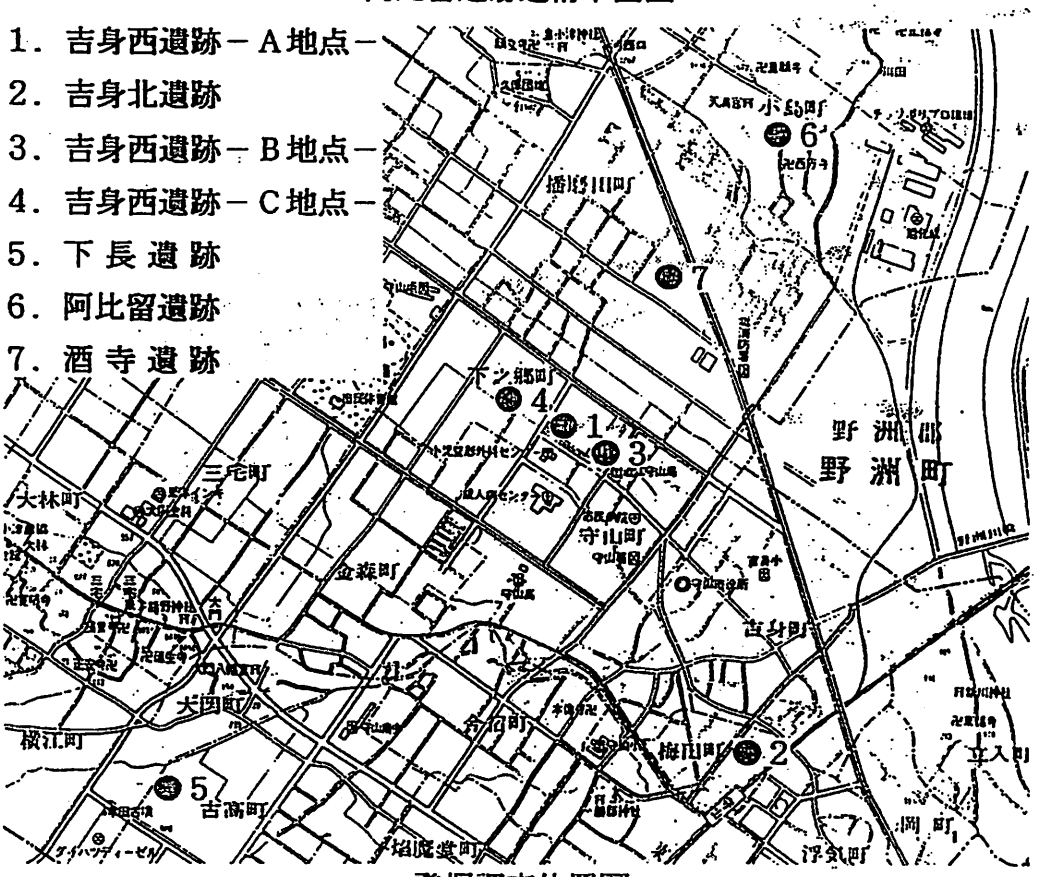
包含層出土紡錘車実測図

紡錘車（糸を紡ぐ時に使うはずみ車）や臼玉などの滑石製品が出土しています。鎌倉時代の遺構（表土下40cm）は若干の柱穴と溝を検出しただけであり、この地点が当時の集落の縁辺であったことがわかりました。

（小島）



阿比留遺跡遺構平面図



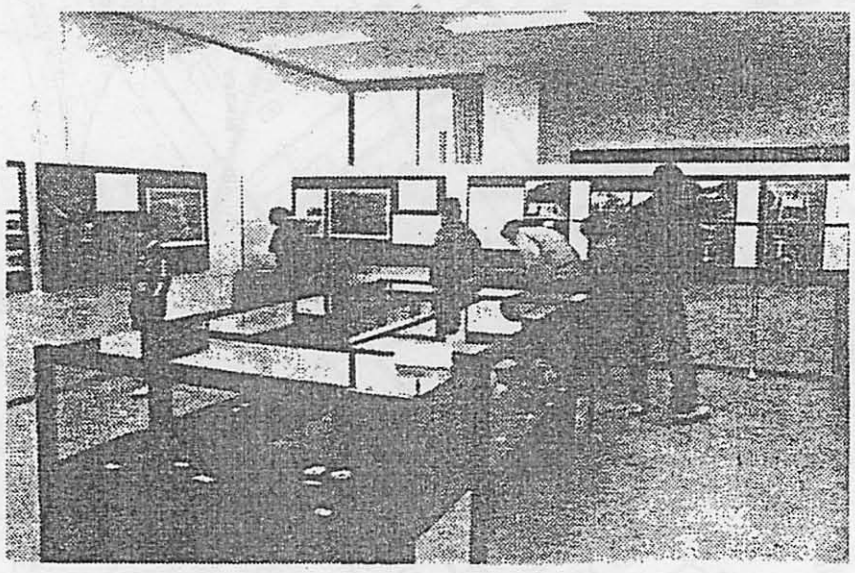
発掘調査位置図

7．酒寺遺跡

区画整理事業に伴い、実施している酒寺遺跡の調査もなかばにさしかかっているところです。現在、幅２～４ｍの溝を約100ｍにわたって検出しています。平面形ではわずかに南側に湾曲していて、下之郷遺跡にむかって広がって行くようで、集落を囲む溝（環濠）の可能性があります。溝の時期は調査中であるため、よくわかりませんが、上層から弥生時代後期の土器が出土しています。このほか遺構は確認できませんでしたが、縄文時代の土器や石鏃（やじり）が見つかっています。

（伴野）

埋文ピックアップ

☆ 秋季特別展終了 ☆

11月23日から12月８日まで「野洲川－水と人とのかかわり－」と題して特別展を開催しました。今回の特別展は野洲川南北流が平地化されつつある今、野洲川とこの地域に生きる人々とのかかわりを様々な資料から検証しようとしたものです。期間中４００人程の見学者が来観され、川と人とのつながりを示す考古資料、民俗資料、写真パネルなどの展示品に見入っていたようです。